

# Reference service から

レファレンス・サービスとは、本学学生・教職員の資料・情報の探索を図書館員がサポートする人的資源サービスであり、図書館2階メイン・カウンターと3階参考カウンターで受け付けています。

調べ物をするときに利用する「レファレンス・ブック(辞典・事典・ハンドブック・年鑑など)」は身近なツールですが、ヒトを介した「レファレンス・サービス」となると「こんなことを訊くのはちょっと…」と躊躇しがちです。しかし、一方通行の「レファレンス・ブック」よりも、相互に「問い」について質問し合う「レファレンス・サービス」の方が求めているものの質や量がだんぜん違ってきます。何を求めているのか分からない状態からでも、相談しているうちに徐々に明確になることもありますので、気軽に利用してください。

ただし、「レファレンス・サービス」では「問い」に対して「答えは〇〇です」ではなく「このような資料もあります」と資料や情報を提示します。その中から選択・考察し、レポート等を完成させるのは自分であることをお忘れなく。また、医療に関することなど対応できない質問もあります。

今回、多種多様な資料や国内外のデータベースを駆使して回答した質問の中から3点をご紹介します。また、国立国会図書館が実

施する「レファレンス協同データベース(<http://crd.ndl.go.jp/jp/public/>)」では、一般公開されている公共図書館、大学図書館等のレファレンス事例データを利用することができます。



## 質問1 風邪薬の値段の移り変わりに関する資料はありますか？

- ①「日本長期統計総覧 第4巻 事業所・企業・企業経営・賃金・物価・家計」(日本統計協会、1988)に、「感冒薬」の昭和25年以降の価格が掲載されています。(2006年に新版が出て、付録のCD-ROMでキーワード検索可能です。)
- ②「小売物価統計調査年報」、「小売物価統計調査20年報：全国66都市 昭和36～昭和55年」にも載っており、最近のものは、総務省統計局のサイトで見る事が可能です。[小売物価統計調査 <http://www.stat.go.jp/data/kouri/3.htm>]

- ③製薬会社の社史を見るともっと詳しく載っているかも知れません。
- ④その他、値段を調べる資料に『値段史年表 明治・大正・昭和』(朝日新聞社 1988)、『日本の物価と風俗130年のうつり変わり』(日本新聞連盟、1997)、『完結昭和国勢総覧』(東洋経済新報社、1991)などがあります。
- ⑤『読売新聞CD-ROM/DVD』で広告を検索する方法もあります。

## 質問2 北海道内の離島(利尻、礼文、天売、焼尻、奥尻)の人口が載っている資料(明治時代から現在まで)はありますか？

質問者自身が各町村史を調べた結果、天売、焼尻は、昭和30年代に羽幌と合併したため、『羽幌町史』(1968)には詳しく載っていないとのことでした。

- ①離島関係の論文を検索した結果、「北海道開拓記念館調査報告」21号 1982 笹木義友「奥尻、焼尻、天売、利尻、礼文各島の戸数表 明治13～昭和30年」、「北海道開拓記念館研究報告」8号 1988「離島社会の歴史と文化」に掲載されています。

- ②最近の人口については、『離島統計年報』(日本離島センター)に掲載されています。(所蔵してないので他館から該当部分をコピーで取り寄せました。)

## 質問3 ヨーロッパ地方自治憲章の翻訳を探しています。

- ①[Webcat-plus <http://webcatplus.nii.ac.jp/>]、[国立国会図書館 雑誌記事索引 <http://opac.ndl.go.jp/>]、[特別区自治情報・交流センター 蔵書検索 <http://www.research.tokyo-23city.or.jp/>]で「ヨーロッパ地方自治憲章」をキーワードに検索すると、次の資料がヒットします。「資料現代地方自治」(杉原 泰雄編)、『都市問題』81巻8号1990.8、「法律時報」66巻12号1994.11

- ②[分権ネット/資料室 <http://www.bunken.nga.gr.jp/bunkennet.html>]で仮訳と原文が参照できます。なお、草案の訳は、『自治総研』8巻6号 1982.6に掲載されています。